

日本医師会記者会見

厚生記者会・厚生日比谷クラブ

プレスリリース 平成30年1月24日(水)

**ネット健康問題啓発者養成全
国連絡協議会設立** 略称(「養成協議会」)

**Networking Conference on Enlighteners
Training for Health Effects of Internet Use
(NCETHEIU)**

養成協議会共同代表

大谷良光(元弘前大学教育学部教授)

養成協議会 の 目的

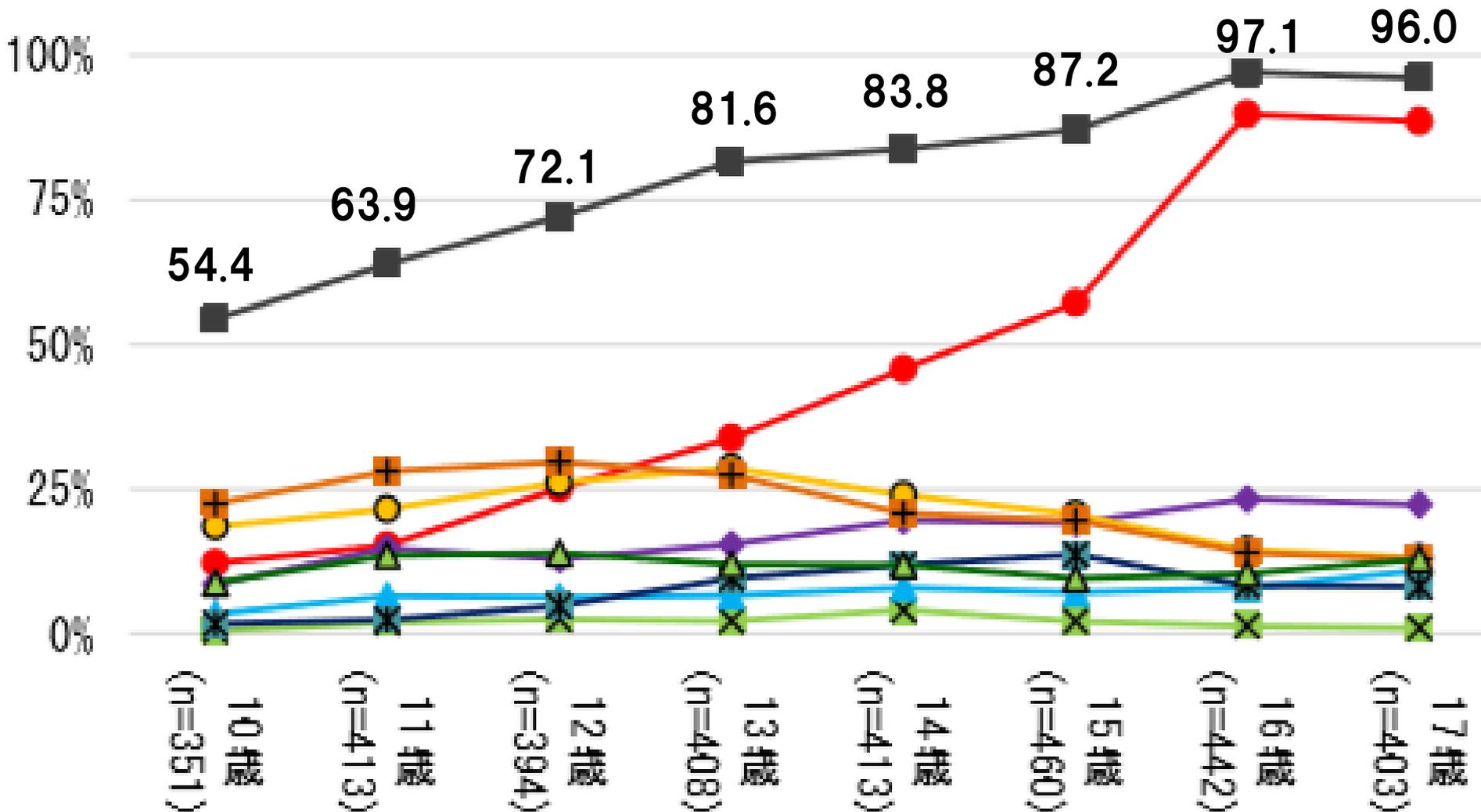
スマホの急速な普及により、幼児・児童・生徒（以下「子ども」）利用の**早期化・長時間接触**が際立ってきている。そのため脳・視聴覚の発達障害・睡眠障害による発達不全・ネット依存等の症状が明らかになってきているが、その国民的認識と国・自治体の対策は極めて遅れている。

2. これらの被害の事象とその科学的根拠、対策・予防についての**初歩的な講演**のできるネットアドバイザーの養成。

10～17歳のインターネット利用率

出典：内閣府平成28年度 青少年のインターネット利用環境実態調査

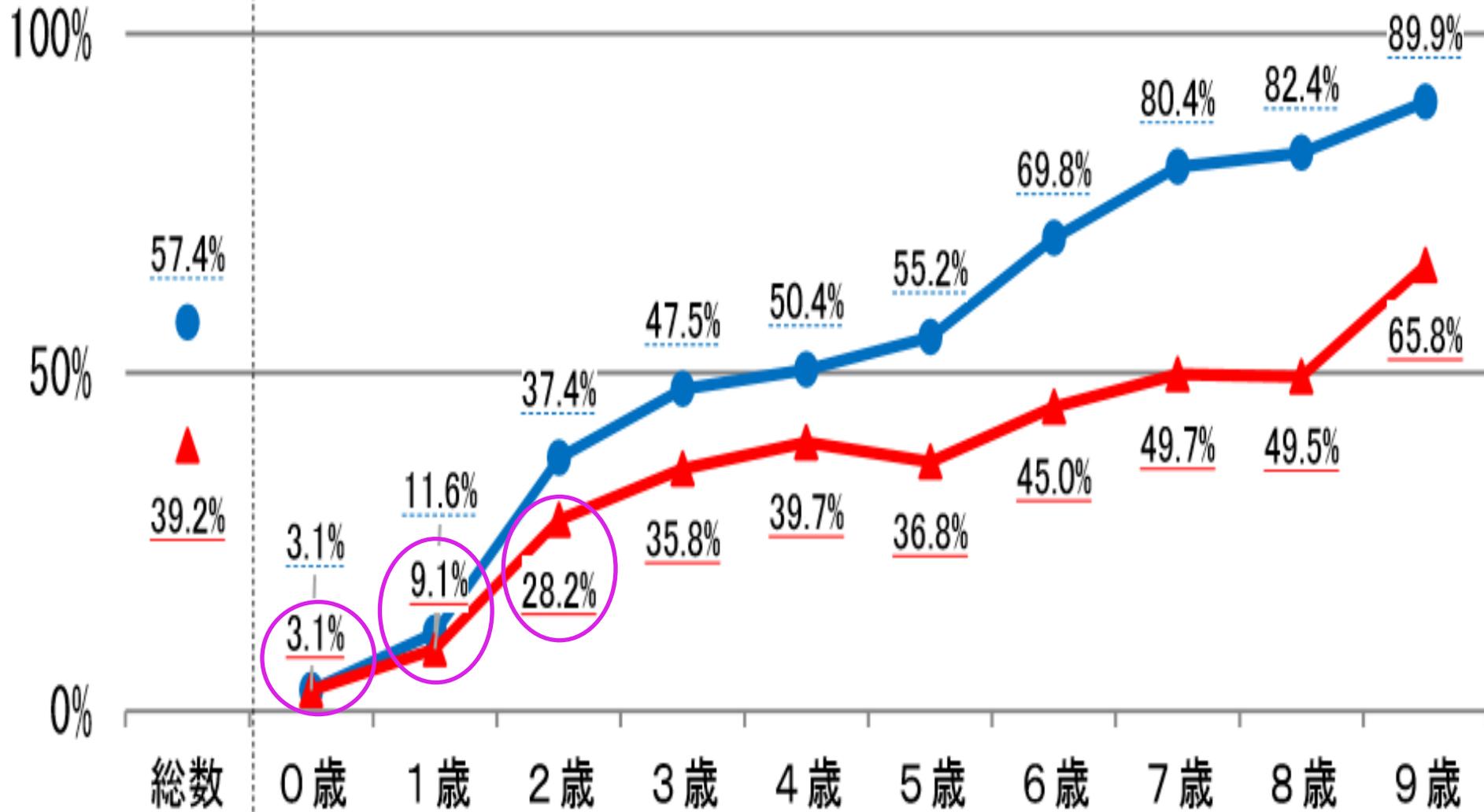
■：インターネット利用率 ●：スマホ利用率



0～9歳のインターネット利用率

出典：内閣府平成28年度 青少年のインターネット利用環境実態調査

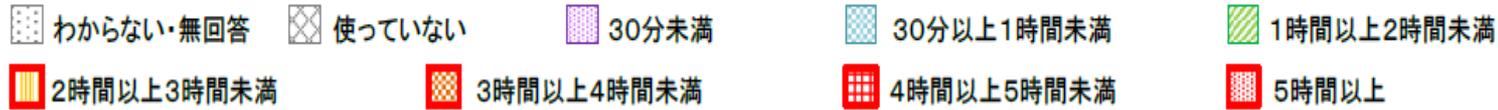
▲：インターネット利用率 ●：機器の利用率



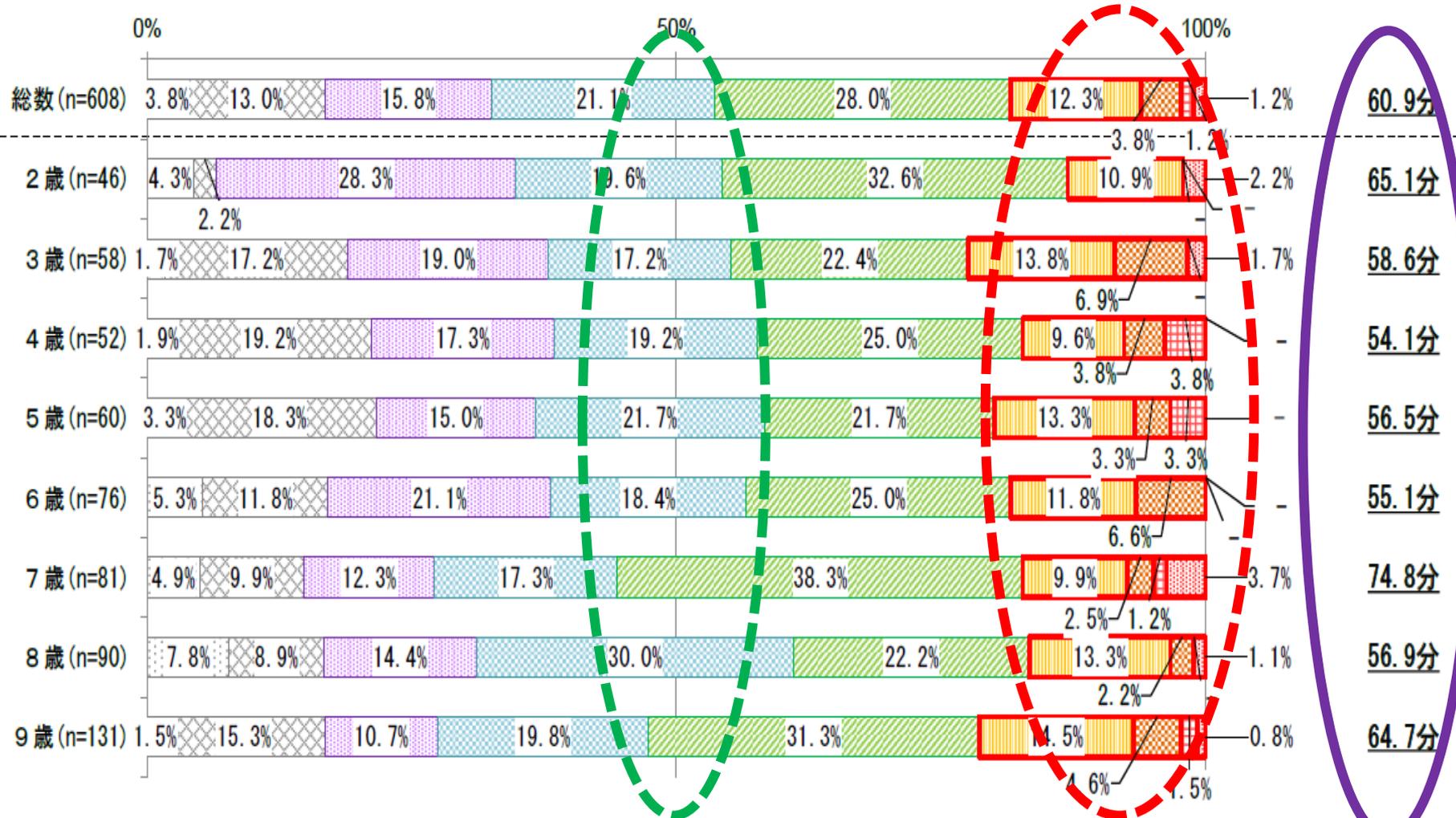
子どもたちのネット利用時間

内閣府2016年調査

子供のインターネットの利用時間(平日1日あたり、利用機器の合計、子供の年齢別)



平均利用時間



平日のネット利用時間・各種調査の整理 大谷

| | 2時間以上 | 3時間以上 |
|----------|----------|---------|
| 高校生 | 60%から80% | 40%-60% |
| 中学生 | 40%から60% | 30%-45% |
| 小高学年生 | 25%から50% | 10%-35% |
| 小低学年生 | 15%から30% | |
| 幼児(4-6歳) | 10%から20% | |
| 乳児(0-3歳) | 5%から20% | |

子どもからみたネット・スマホ問題の性格

と啓発団体

ネット・ケータイ
問題の三側面
2009・大谷

端末
パソコン
スマホ等

《有害情報・情報
発信問題》
外部の方(犯罪者
を含め)との係りによ
り発生する

《ネットいじ
め・誹謗中
傷問題》

学級・学校
等の子ども間
で発生する

コンテ
ンツ・
アプリ
動画
SNS
等

《ネット依存・健
康被害問題》
自分自身に発生
する

日本における民間の啓発団体協議会



安心ネットづくり促進協議会

Japan Internet Safety Promotion Association (JISPA)

English Page

サイト内検索

文字サイズ

安心
ネットづくり
促進協議会
とは

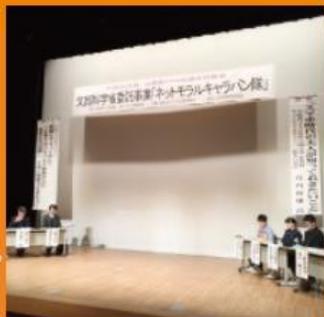
出前講座・
研修会

青少年の
スマホ利用の
リスクと対策

青少年の
安心安全な
インターネット
利用

調査研究
委員会
活動報告

レポート



→ 保護者向け啓発事業



→ 青少年のスマホ利用のリスクと対策啓発事業



→ 青少年向け啓発事業



→ 出前講座・研修会

青少年のための
安心で
グッドネットな
環境利用を

携帯会社と情報産業等による人と資金の提供で活動

加盟団体の内、13社とe-ネットキャラバン(総務省)の14団体が無料で全国の学校を訪問

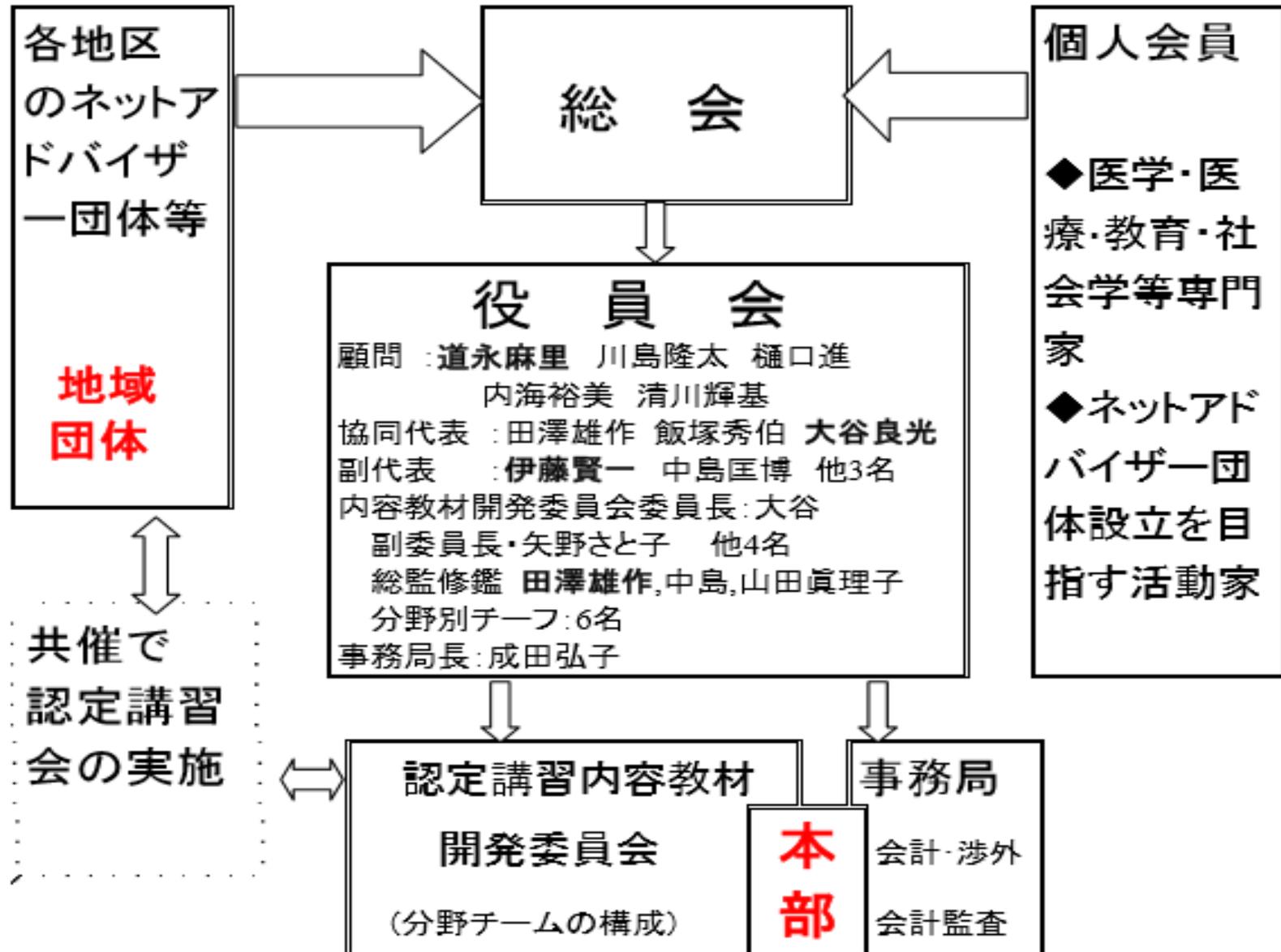
養成協議会の構成

日本医師会・日
本小児科医会等
医療の専門家

ネットアドバ
イザー団体
(ネット問題
啓発者)

教育学・社
会学等
研究者

養成協議会の構成



呼びかけ・設立メンバーと役員

ネットアドバイザー団体、医療系組織、教育・社会学研究者の3系列の連携協議会

《呼びかけ人・準備会設立発起人 13名》

【医療系】

■道永麻里（日本医師会常任理事・学校保健担当、日本学校保健会副会長）＝**筆頭顧問**

■内海裕美（日本小児科医会常任理事・「子どもとメディア委員会」担当理事・小児科医）＝**顧問**

■中島匡博(日本小児科医会「子どもとメディア委員会」委員長・小児科医) = **副代表・開発委員会総監修鑑**

■田澤雄作(仙台医療センター・元小児科部長、東北大学大学院医学系研究科・元臨床教授、日本小児科学会「学校保健心の問題委員会」元副委員長) = **共同代表・開発委員会総監修鑑**

■川島隆太(東北大学加齢医学研究所所長・教授・脳科学者) = **顧問**

◆樋口進(久里浜医療センター所長、精神科医) = **顧問**

【アドバイザー団体】

■飯塚秀伯（NPO法人ぐんま子どもセーフ
ネット活動委員会・代表）=**共同代表**

■清川輝基（NPO法人子どもとメディア代表
理事）=**顧問**

■成田弘子（白梅学園大学前特任教授、
小学校教育・子どもとメディア関東共同代表）
=**副代表・事務局長**

【教育学・社会学等研究者】

■伊藤賢一(群馬大学社会情報学部・教授・社会学ネット依存研究) = **筆頭副代表**

■大谷良光(子どものネットリスク教育研究会代表・前弘前大学教授) = **共同代表・開発委員会委員長**

■瀧澤利行(茨城大学教育学部・日本学校保健会理事) = **副代表**

■山田真理子(子どもと保育研究所ぷろほ所長・九州大谷短期大学名誉教授) = **副代表・開発委員会総監修鑑**

ネット健康被害系インストラクター

講習コースの概要 1

(1)コースは 3コース

①認定インストラクター講習コース

②研修コース

③認定上級インストラクター講習コース

(2)認定コースは、**3**日間

(3)研修コースを認定コースと同じ日に開設するときは、その内の3日、2日間かを受講者が選択

ネット健康被害系インストラクター

講習コースの概要 2

認定講習の内容・教材編成の基本的視点

(1) ネット・スマホ・SNSの**長時間接触**により発生している健康被害。ネット敵論、端末所持禁止論ではない

(2) 健康被害の事象・現象の長時間接触との相関関係が明確になり、そのエビデンス(科学的根拠・因果関係)が明確なもの。

ネット健康被害系インストラクター講習コース の内容・教材の制作

◎制作は養成協内容教材開発委員会が担う

《内容教材総監修鑑》

中島匡博、田澤雄作、山田真理子

《各分野の医療専門家の医学博士》

《講習会講師》 ◆医療専門家

◆開発委員会の分野チーフ

《開発委員》 子どものネットリスク教育研究会、子どもとメディア関東、NPO法人ぐんま子どもセーフ

ティーネット活動委員会、NPO法人子どもとメディア

今後参加される各団体のネットアドバイザーの方

顕在化している健康被害と講習内容試案

プレスリリース3頁参照

青森プレ認定講習会で試行 大きな成果

1. 子どものネットリスク教育研究会青森支部と青森県医師会と共催で実施
2. 定員の30名を超える32名の参加者。冬休み最終の1月13日(土)と14日(日)の実施で
3. 参加者の意欲あふれる感想と決意。高い評価。